

中国地方が梅雨入りしました。本格的な水害のシーズンです。近年は水害が頻発しており、身近な自然災害の一つとなっています。いつどこで、水害に遭遇するかわかりません。身近な災害である水害への備えが必要です。



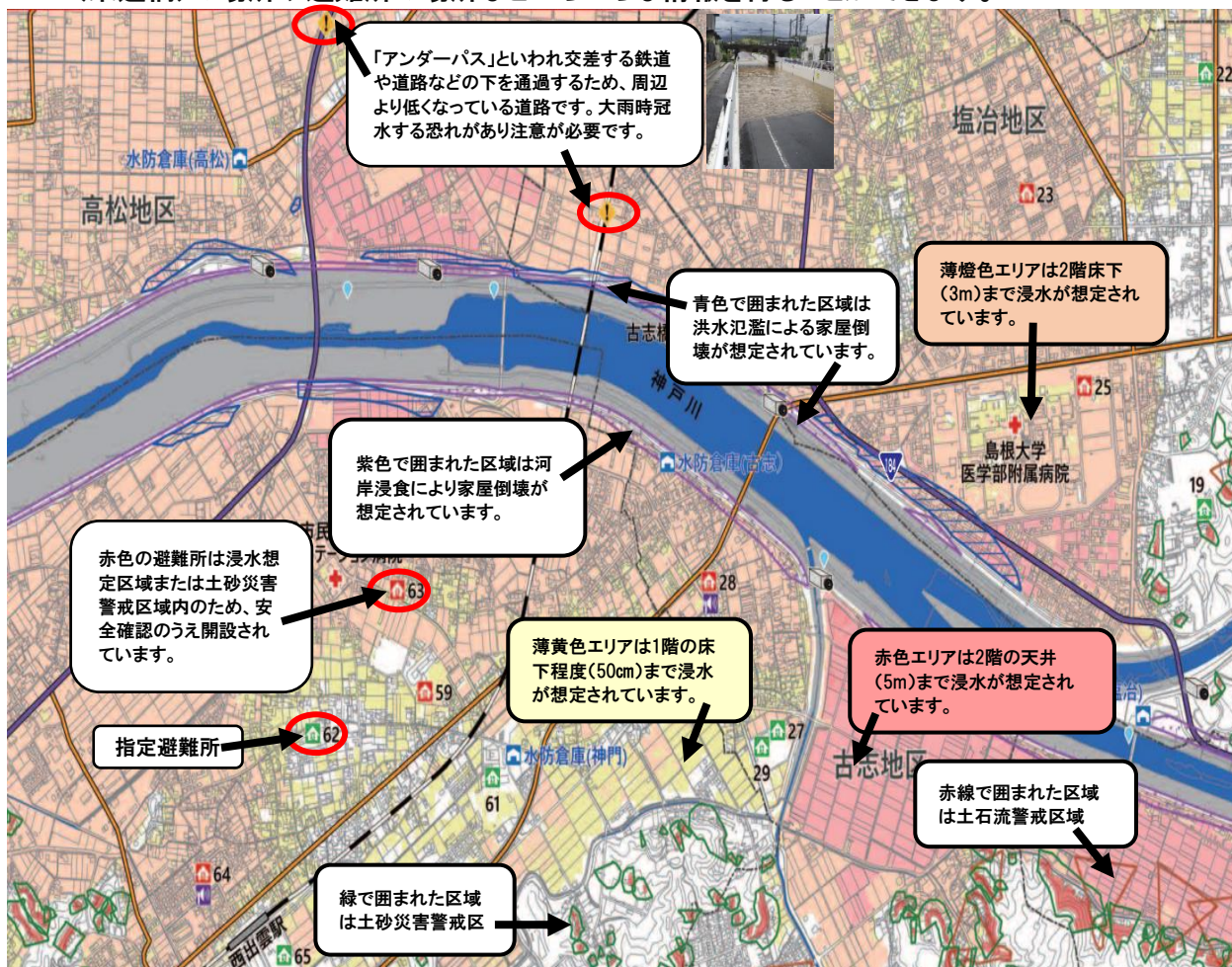
最近ニュースで「ハザードマップ」ってよく聞くんですが、「ハザードマップ」ってなんですか・・・？どうやって使うものですか？

ハザードマップは、住んでいる地域や職場周辺で台風、大雨、地震といった災害が起きた時に、どこにどのような危険があるか、災害が起こった場合はどこに避難したら良いのかという情報を地図上にまとめたものを言います。ハザードマップからは色々な情報が得られますよ！



【どう見る？ハザードマップ】

ハザードマップからは、想定浸水範囲、想定浸水深、土砂災害警戒区域のほかにも、地域のアンダーパス(架道橋)の場所や避難所の場所などいろいろな情報を得ることができます。



→裏面あり

【どうする！？水害時の避難】

避難はレベル4までに！**レベル5を待ってはいけません**。まだレベル5があるから大丈夫ではなく、避難指示が出たら避難が必要です。命を守るのは自分自身です。情報を受けるだけでなく、情報を行動につなげられるようどこに、どのタイミングで逃げるのか、「避難スイッチ」をあらかじめ考えておくことが重要です。

警戒レベル	とるべき行動
5	緊急安全確保
～警戒レベル4までに必ず避難！～	
4	避難指示
3	高齢者等避難
2	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	早期注意情報(気象庁)

命を守って！

危険な場所から全員逃げて

危険な場所から高齢者等は避難

避難方法を確認

最新情報に注意

① 動きやすくケガを防げる格好で！



避難時は長ズボンなど動きやすく怪我をしないような服装にします。足元は履き慣れたスニーカーに。長靴だと、中に水が入ると重くなって足を動かしにくくなります。ビーチサンダルなども脱げやすく、足元が見えにくい濁った水の中で怪我をする可能性があります。

② 避難は複数人で慎重に！

避難をするときは単独行動は避けます。浸水している道は足元が見えにくく水路や側溝との境界が分からなくなり足を取られる可能性があります。傘などで足元を確認しながら進みます。たとえいつもの通り慣れている道でも油断は禁物です。



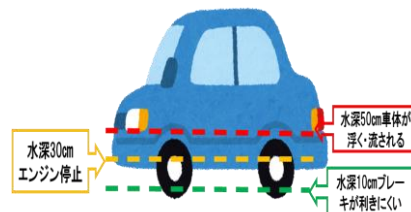
③ 危険な場所には近づかない！



浸水リスクや危険のある場所は通らないようにします。アンダーパス(架道橋)、河川の近く、田んぼの近く、崩れる可能性のある山沿いなど使い慣れている道でも注意が必要です。水かさが増すと移動困難になります。成人男性でも水深50cmを超すとともに歩けなくなる事もあります。高齢女性であればせいぜい30cmです。この水深を超すとともに移動することが難しくなります。

④ 車は意外と危険！

浸水が浅くても、川からあふれた水などで勢いがあれば、車は簡単に流されます。車が浸水すると、水圧の影響で、ドアを開けることが難しくなります。ドアが大きくなると受ける水圧も大きくなるので、ドアが大きいタイプの車や、スライド式のドアの車も脱出が困難になります。



編集後記

今回は水害時のハザードマップと避難についてお伝えしました。近年水害は頻発しています。もしもの時に備えハザードマップの確認や避難方法など事前準備が不可欠です。次回は秋頃にお届けする予定です。

DiMCOC Tel:0853-88-3040(内線:3040)♡